

評価の実際

□ [書く能力] ①における評価の実際

[書く能力] ①「自分の伝えたいことを相手に効果的に伝えるために、写真に組み合わせる文章を、読み手に考えさせるように工夫して書いている」については、第4時の学習を終えた段階で、ワークシート⑤で作成したフォトストーリーの記述によって評価を行った。

フォトストーリーはテーマを「学校をよりよいものにしていくために、全校生徒の心を動かそう」とし、ワークシート④で提示した13枚の写真や自分が用意した写真の中から3枚を選んでフォトストーリーを構成し、それに組み合わせる文章を書いて印象的な作品を仕上げるというものである。

指導の際には、3つにまとめた「読み手に考えさせる文章を書くためのポイント」を押さえて書くことを確認させ、具体的な表現の工夫の参考とさせるために、学習の手引き「読むこと」④「表現の工夫に強くなる！」を配付した。

「読み手に考えさせる文章を書くためのポイント」	
1	写真だけでは伝わらない必要な情報を書く。
2	自分の意見を直接書かないで読み手に考えさせるような問い掛けをする。
3	印象に残る表現技法(比喩や反復等)を使う。

生徒が作成したフォトストーリーについては、次のような目安で評価を行った。

	[書く能力] ①
「おおむね満足できる」状況 (B)	○写真だけでは伝わらない必要な情報を書き、比喩や反復などの表現の技法を使ったり、1文の長さや文の数、用語や表記を工夫したりして、印象に残るように書いている。
「十分満足できる」状況 (A) のキーワード	○読み手に考えさせるように自分の意見は「直接書かない」 ○読み手に考えさせるように「問い掛ける」または「事実だけを書く」
「努力を要する」状況 (C) と判断される生徒への手立て	→どのような内容で書こうとしているのかを具体的に聞き、対話することで考えを整理させる。 →学習の手引き等を手掛かりに、具体的な表現の工夫の例を示す。

「おおむね満足できる」状況 (B) については「読み手に考えさせる文章を書くためのポイント」の1と3の条件を満たしている状況である。

「十分満足できる」状況 (A) については「読み手に考えさせる文章を書くためのポイント」の1, 2, 3の全てを満たしている状況であり、ポイントの2については意見を直接書かないということと、考えさせるような問い掛けをするということの両方の要件を満たしている状況である。ただし、「～問い掛けをする」には、「どうですか」「どう考えますか」といった言語によって「問い掛ける」だけでなく、事実だけを突き付けることで問い掛けをしていると見なすことができるので「事実だけを書く」こともポイントの2の条件を満たすと判断した。

具体的には、第3時の学習で活用したワークシート⑤の記述によって以下のように評価した。

■「十分満足できる」状況（A）と評価した例

<p>学校の廊下の掲示板上に、部活動等の表彰状がはられている写真。</p>	<p>教室で、数人の生徒がほうきで床を掃いたり、床をぞうきんでふいたりして熱心に掃除をしている写真。</p>	<p>教室で、たくさんの生徒が発言するために挙手している。積極的に学習に取り組む様子が分かる写真。</p>	<p>選んだ写真（3枚）</p>	<p>ワークシート⑤ 「フォトストーリー」を作ろう「紹介しよう」～読み手に考えさせる文章を書く～</p> <p>二年 組 号</p> <p>●題名を決めて「フォトストーリー」を作ろう「題名 ワークシート⑤に書きましょう」</p> <p>学校をより良いものにしていくために、全校生徒の力を動かそう！</p> <p>写真だけでは伝えられない事実や思いを伝える文章</p>
<p>これは、部活などで賞をもらった時の賞状です。部活に入っている人は、日々の練習の成果を試合やコンクールで発揮し、賞状もたくさん持って帰ってきます。</p>	<p>これは掃除時間の様子です。全校の人が無言で十三分間掃除を行います。時間があまるとまだ掃除をしてない所をさがして時間いっぱい行うのです。</p>	<p>これは授業中の発表の時間です。クラスの人と人か自分から手をあげ発表します。たくさんの人が授業に積極的に取り組んでいると思います。</p>	<p>写真だけでは伝えられない事実や思いを伝える文章</p>	

図1 「十分満足できる」状況（A）と判断した生徒のワークシートの記述 その1

図1の生徒は、写真からでは読み取れない情報について「これは授業中の発表の時間です」「全校の人が無言で十三分間掃除を行います。時間があまるとまだ掃除をしてない所をさがして時間いっぱい行うのです」などと書いていると同時に、文章の書き出しを「これは、～です。」と同じ形で繰り返してリズムを生み出し、印象に残る表現にしている。加えて、「学習や掃除、部活動に一生懸命取り組むべきだと思います」などのように直接的な意見を書かずに、「たくさんの人が授業に積極的に取り組んでいると思います」と写真から読み取れる状況を「積極的」だと判断する程度にとどめているところから、フォトストーリーの表現方法を生かして自分の意見は直接書かないで、読み手に考えさせるように「事実だけ」を書いて表現を工夫している状況と判断できる。以上のことから、この生徒は「十分満足できる」状況（A）であると評価した。

<p>数人の女子生徒が、熱心にトイレ掃除をしている写真。</p>	<p>トイレのスリッパがきれいに並んでいる写真。</p>	<p>共同のロッカーに、スポーツバックが整頓しておかれている写真。</p>	<p>選んだ写真(3枚)</p>
<p>「毎日、だれかが使ったスリッパをだれかが並べてくださっています」 「毎日だれかが掃除をしてくださっています」というように写真にない情報を書いていると同時に、「みんな～使う(使っている)」と「だれかが～(して)くださっています」という表現を対照して繰り返し、印象に残るように工夫して書いている。</p>	<p>「みんな～使う、そのトイレもスリッパもきれいに並べてある写真です。」 「毎日、だれかが使ったスリッパをだれかが並べてくださっています。みんな～使っています。」 「毎日、だれかが使ったスリッパをだれかが並べてくださっています。」</p>	<p>「自分のロッカーに入らなくなった荷物を置いておく、みんなが共同で使うロッカーです」 「毎日、だれかが使ったスポーツバックをだれかが整頓しておかれています。」</p>	<p>写真だけでは伝えられない事実や思いを伝える文章</p>

ワークシート④ 「フォトストーリー」を作った後、読み手に考えさせる文章を書く。

課題名を決めて「フォトストーリー」を作る。ワークシート④に書きましよう。

学校をより良いものにしていくために、全校生徒の心を動かそう。

図2 「十分満足できる」状況(A)と判断した生徒のワークシートの記述 その2

図2の生徒も、「自分のロッカーに入らなくなった荷物を置いておく、みんなが共同で使うロッカーです」「毎日、だれかが使ったスリッパをだれかが並べてくださっています」「毎日だれかが掃除をしてくださっています」というように写真にない情報を書いていると同時に、「みんな～使う(使っている)」と「だれかが～(して)くださっています」という表現を対照して繰り返し、印象に残るように工夫して書いている。加えて、フォトストーリーの表現方法を生かして事実を淡々と述べ、自分の考えは、写真から推し量ることのできる人々の善意を説明するだけにとどめており、読み手に考えさせるように「事実だけ」を書いて表現を工夫している状況と判断できる。以上のことから「十分満足できる」状況(A)であると判断した。

■「おおむね満足できる」状況（B）と評価した例

<p>机がきちんと並んでいる教室の写真。</p>	<p>つけっぱなしの扇風機の写真。</p>	<p>男子トイレの掃除を熱心に行っている2～3名の男子生徒の写真。</p>	<p>選んだ写真（3枚）</p>
<p>考えてみてください。机がきちんと並んでいる教室の机です。これはきちんと並べられた教室の机です。みんなが心掛ければ、みんなが気持ちよく過ごせるのではないのでしょうか。</p> <p>考えてみてください。机がきちんと並んでいる教室の机です。これはきちんと並べられた教室の机です。みんなが心掛ければ、みんなが気持ちよく過ごせるのではないのでしょうか。</p>	<p>扇風機、誰が止めるのでしょうか。</p> <p>これは、誰もいない教室にあって、扇風機です。動いたままになっています。「節電」と言われる中、将来のために誰かが止めるべきです。</p>	<p>考えたみてください。汚ないトイレを気持ちよく使うことができますでしょうか。</p> <p>これは、掃除をしているところです。すみずみまで、一生懸命に取り組んでいます。きれいなトイレだと、使う人はどう感じるでしょうか。</p>	<p>写真だけでは伝えられない事実や思いを伝える文章</p>

ワークシートの「フォトストーリー」を作ろう「一語一語、読み手に考えさせる文章を書く」

学校をより良いものにしていくために、全校生徒の心を動かそう！

図3 「おおむね満足できる」状況（B）と判断した生徒のワークシートの記述 その1

図3の生徒は、「考えてみてください」をそれぞれの写真に付ける文章の冒頭に書いて繰り返したり、「どう感じるでしょう」「誰が止めるのでしょうか」「見た人はどう感じるのでしょうか」と問い掛けたりして表現を工夫している。しかし、「誰かが止めるべきです」「みんなが心掛ければみんなが気持ちよく過ごせるのではないのでしょうか」というように意見を直接書いていて、本単元の目標であるフォトストーリーの表現方法を生かして効果的な文章を書くという点で、「十分満足できる」状況（A）のキーワードを満たしていないので、「おおむね満足できる」状況（B）であると判断した。なお、この生徒には、推敲の段階で形成的評価を行い、「読み手に考えさせる文章を書くためのポイント」に従って推敲するよう促したが、「自分の意見を直接書かない」という点において理解が不十分であったと考えられる。具体例を挙げるなどして、理解を確かにする必要があった。

●選名を決めて「フォトストーリー」を作ろう「選名」を参考に考えさせる文章を書く
 学校をより良いものにしていくために、全校生徒の心を動かそう！

<p>掃除に熱心に取り組んでいる様子を写した写真。</p>	<p>朝読書の様子を写した写真。全員が静かに本を読んでいる様子が写っている写真。</p>	<p>教室で、たくさんの生徒が発言するために挙手している。積極的に学習に取り組む様子が分かる写真。</p>	<p>選んだ写真(3枚)</p>
<p>考えてみて下さい。無言で掃除をしている姿を。これは心を鍛えるのと同じです。教室ホレイにするのと同じです。何をかおろします。自分を鍛えるには、何にでも積極的であるのが必要です。</p>	<p>考えさせてください、みんなが静かに本を^{本を}読んでいます。短い時間でも本を^{本を}読んで読む力をつけていきます。</p>	<p>考えてみて下さい。生徒全員が、か手をあげている姿を。長時間の授業でも、みんな積極的に手をあげています。</p>	<p>写真だけでは伝えられない事実や思いを伝える文章</p>

図4 「おおむね満足できる」状況(B)と判断した生徒のワークシートの記述 その2

図4の生徒は、グループで交流した後、図3の生徒のワークシートの表現の工夫を参考にして書き直している。反復や倒置法を用いて強調したり、「短い時間でも本を読んで読む力をつけていきます」「無言で掃除をしている(姿)」等写真だけでは伝わらない必要な情報を書いたりしているが、「自分を鍛えるには、何にでも積極的であるのが必要です」と自分の意見を直接書いている。したがって、「十分満足できる」状況(A)のキーワードを満たしておらず、「おおむね満足できる」状況(B)であると判断した。

「努力を要する」状況(C)と判断した生徒については、生徒が何を書こうとしているのかを対話によって聞き取り、具体的な書き出しや、表現の工夫についてアドバイスをした。また、書こうとする内容について答えられない生徒に対しては、生徒の実生活から問題意識をもちそうなことを推し量ってこちらから提示するなどの手立てをとり、第4時の交流の際に読んだ友達の作品を参考にさせるなどして、単元の学習が終わるまでには、「書くこと」の評価規準「自分の伝えたいことを相手に効果的に伝えるために表現を工夫して書くことができる」について少なくとも「おおむね満足できる」状況(B)となるようにした。